■社会福祉学科（社会福祉コース）カリキュラムマップ

社会福祉学科ディプロマポリシー（学位授与方針）
社会福祉学科では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に学位を授与します（「社会福祉コース」と「総合福祉コース」共通）。

(1)知識・理解

①基礎的知識：幅広い視野と豊かな人間性に加え、社会福祉の意義と機能を理解できる。
②専門的知識：人と社会環境の視点から、現代の社会生活に関わる諸問題が理解できる。
③応用的知識：理論と実践の融合的な学びを通じて、主体的に問題を解決できる。

(2)汎用的技能

④コミュニケーション力：多様な価値観を理解し、自己とは異なる意見や考え方をもつ様々な人々とコミュニケーションをとる（相互理解をはかる）ことができる。
⑤レポート作成力：課題の趣旨を理解した後、必要な情報（資料）を収集整理し、図表を活用しながら論理的に自分の考えを相手（読者）にわかりやすく伝えることができる。
⑥情報コミュニケーション技術（ICT）活用力： ICTを用いて情報収集・分析・プレゼンテーションを行うことができる。
⑦論理的思考力：人間社会における複雑な生活問題に対して、根拠から結論を導き、簡単にわかり易く構造化しながら表現できる。
⑧問題解決力：人間社会における様々な生活問題を明確にすると共に、問題解決方法について多角的な視点から情報の収集・分析・整理を行い、解決・調整できる。

(3)態度・志向性

⑨自己管理力：自らを律して、人間の尊厳と基本的人権を尊重する価値に基づいて行動できる。
⑩協調性・主体性：他者に配慮しながら、目標と問題を共有し、協調・協同して行動できる。
⑪倫理観：自らの良心と社会の規範やルールにしたがって行動できる。
⑫市民としての社会的責任：人びとの幸せや地域・社会の発展のために積極的に社会に関与できる。

(4)統合的な学習経験と創造的思考力

⑬創造的思考力：社会福祉の学びを統合的に活用し、自ら課題を設定し、理論と実践の融合を通して独自の解決法・解決案を導くことができる。

	科目分類・科目名称	主題	達成目標	ディプロマポリシーとの関係（◎特に重要、○重要、△望ましい）												
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
専門基礎科目A群	社会福祉原論（職業指導を含む）	社会福祉の基礎科目として、社会福祉の目標・対象・方法、法制度の歴史的展開と枠組み、社会福祉サービスを支える専門性とその養成、社会福祉専門職の仕事と倫理、社会福祉事業の特徴と経営、グローバルな社会福祉政策の流れとわが国の特徴など、社会福祉を学ぶ上での基盤的知識を修得する。	1．「社会福祉問題」の概念を説明できる。 2．「社会福祉問題」の解決を図るための社会的行動体系であるのか、説明できる。 3．社会福祉の一般化・普遍化を説明できる。 4．社会福祉と福祉サービスの違いを説明できる。 5．ケアワークとソーシャルワークの違いと統合性について説明できる。6．専門性と専門職の役割について説明できる。7．福祉多元化、複合福祉、福祉における「新しい公共」などについて説明できる。	◎	◎					○		○	○	○	○	○
	社会保障論	本講義のねらいは、社会保障とは何か、私たちの生活にどのような影響を及ぼすのか、あるいは生活にどのように活用することができるのかを理解することにある。その際、「老後になったら」「病気になったら」「生活困窮状態になったら」というように「もし自分なら」という視点から講義を進める。	1.利用者にかかわる場面において、社会保障の知識を活かすことができる。 2.自らの生活に、社会保障の知識を活かすことができる。 3.社会保障改革に対する自分の物差しをもつことができる。	◎	○	○				△	△					○
	福祉法学	本講義の主たるテーマは、社会福祉の援助職が法学を学ぶ意義を理解することである。又単に知識を詰め込むといったパソコンとは差別化される、人間の理解とは何かも講義を通じて理解できることもサブ・テーマとしている。	1.社会福祉の相談職が法学を学ぶ意義を説明できる。 2.法の機能について説明できる。 3.社会福祉の相談援助職の職務内容との関連において、憲法、民法、行政法の概要、成年後見制度を説明できる。 4.権利擁護の用語を概説でき、代表的な相当事例をいくつか挙げることができる。 5.更生保護制度の概要及び社会福祉相談援助職との係わりを説明できる。	◎	○	○			△		△	△					○
	福祉心理学	福祉心理学の基本的考え方を、ライフサイクルとライフセージとの関連から捉え、検証していく。とくに老年期に焦点を当て、高齢者の幸せを抽出するための心理的かかわりと、考え方のポイントを理解してもらうように進めていく。	1.心理学の知見と方法を活用し、人々の幸福感やQOLに貢献できる。 2.理論と実践の両方に精通できる力が習得できる。	◎	○	○					○				○	○
	福祉社会学	社会という「舞台」のなかで人々は役割を演じ、相互行為をすることで社会生活は成り立っている。しかし、現代社会では孤独死、自殺、ストレス、失業、生活困窮、家族の希薄化、地域格差、離婚、虐待などが生起し、現代社会は混迷の一途を辿っている。日本国憲法第25条の生存権から明らかに矛盾した事象であり。現代社会は「無縁社会」ともいわれている。 本講座は個人、集団、地域をキーワードにしながら、社会福祉に関わる諸問題を基礎的な社会学理論から問題を解決方法を探究する講義にする。	1.個人の暮らしと生活のあり方を社会福祉との関連で捉え、社会学の意義を体系的に図解できるようにする。 2.社会福祉と基礎的社会学理論との連関性と.日常生活における家族、個人、集団、地域、社会病理、行動、行為などについて定式化ができるようする。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	福祉思想論	ソーシャルワーカーやケアワーカーを目指すということは、人と向き合うことです。人と向き合うということは、人を理解することであり、しっかりとした考え方を持つことが大切です。今日に至るまでのいろいろな人の生き方、考え方を知り、自らを高めることに努力することを目標とします。	1．中国思想から現代の思想まで、主な人物とその人の考え方を論じることができる。2．人としての生き方について考え、自らを高めることができる。	◎				○		◎		○		○	○	△
	生命倫理学	生命の終わりにかかわる倫理上の問題を検討する。テーマは、近年の医療技術の発達により引き起こされている新しい死の問題である。たとえば、インフォームド・コンセント、緩和ケア、尊厳死、安楽死、脳死者からの臓器移植など、生命の終わりに関わる新しい現象が社会的な関心を呼び起こしている。本講義では、こうした生命科学・医療技術の発達に伴って新たに生じてきた道徳的ジレンマの乗り越えを図るために、生命の終わりに関わる倫理学のあり方を再検討したい。	医療倫理上の諸問題について批判的に吟味できるようになる。	○	◎	○						◎	△	◎	△	○
	社会福祉史（西洋）	古代ギリシア・ローマから近現代イギリスに至る、社会福祉的な制度の歩みをたどってみる。	古代ギリシア・ローマから近現代イギリスに至る、社会福祉的制度の歩みを理解し、それを自ら説明できる。													
	社会福祉行財政論	社会福祉は、必要な財源を調達・配置し、制度基準や福祉計画に定められた方法に沿って効果的に配分・運用する仕組みである。社会福祉は、財政と行政の体系として成り立っている。従って、財源である租税や寄付金の調達方法、その計画的予算配分と効率的運用、国と地方自治体との役割関係、福祉事業者による独自の収益・公益事業の調達など、社会福祉に係る財源と分配の方法体系を理解する。	1．福祉行政の制度枠組みと機構を説明できる。2．福祉行政の組織、機関、相談支援システム、ならびに専門職の役割を説明できる。3．国と地方の福祉財政の仕組みと動向を説明できる。4．社会福祉基礎構造改革を説明できる。5．民間社会福祉事業の財源を説明できる。6．福祉サービスの受益と負担について説明できる。	◎	◎	◎				◎		○	○	○	○	○
	社会福祉援助技術総論	ソーシャルワークとは、社会福祉の目標を実現する実践活動の方法である。社会福祉の専門職である社会福祉士、精神保健福祉士は、対人援助職としてその前提に利用者の自己実現に向けた深い理解と洞察、専門職としての倫理が必要とされる。本講義では、社会福祉士・精神保健福祉士の基本について体系的に学び、総合的かつ包括的なソーシャルワークの専門的機能について理解することを目的とする。	1．社会福祉士・精神保健福祉士の役割と意義について説明できるようになる。 2．相談援助の概念と範囲について説明できるようになる。 3．相談援助の理念について説明できるようになる。 4．相談援助における権利擁護の意義と範囲について説明できるようになる。 5．相談援助に係る専門職の概念と範囲および専門職倫理について説明できるようになる。 6．総合的かつ包括的な援助と他職種連携の意義と内容について説明できるようになる。	◎	○	○				△	△	○	◎	○	◎	◎
	総合リハビリテーション論	保健，医療，福祉の領域において，リハビリテーションの重要性が改めて認識されてきている．しかし，意外にもリハビリテーションについて正しく理解されていない．わが国の高齢化率は，急激な増加傾向をたどっている．高齢者の増加に伴い，寝たきりなどの廃用症候群による障害を持つ高齢者の増加も予測され，リハビリテーションの対象は時代の流れの中で大きく変化してきている．本講義では，リハビリテーションの歴史，対象，理念及びリハビリテーションと福祉の関連性について理解を深める．また，総合リハビリテーションの諸相として医学，教育，職業，社会的リハビリテーションの関連性について理解する．	リハビリテーションの歴史，対象，理念などを概論的に理解し，リハビリテーションと福祉の関連性について説明できる．また，総合リハビリテーションの実践方法について説明できる．	◎	○						○					○
	児童・家庭福祉論	本科目は児童福祉の理念・方法等について、法制度及び実際の両面から講義するものである。児童福祉や家庭支援のあり方は時代の変遷と共に変容し今日に至っているが、講義を通してこれまでの歩みと現在を学び、これからあるべき姿を考究する素地の学びを図る。前期では児童・家庭福祉の理念・歴史、法制度等を概観することにより児童・家庭福祉の基本的枠組みを理解する。後期では児童・家庭福祉施策の実施主体の役割と機能、関連機関との連携について、学び、実践活動がどのように展開されるか理解を深める。	児童福祉や権利保障の歴史を心まえ、我が国の児童家庭施策の全体像を捉える。多岐にわたる児童に関する法律や制度を把握し、社会福祉援助技術につながる知識の基礎として活用することができる。	◎	○	○	△			△	○					○
	高齢者福祉論	前半では、加齢による心と身体の変化、そして刻々と変化していく社会環境の理解を基礎とし、「老いとくらし」を中心に、それらを取り巻く社会システムの理解を目的とする。 年を重ねるということの理解、そして生活するということ、それを取り巻く施策制度について概説したい。 後半では、高齢者の特性及び、関連法制度を理解した上で、実際の高齢者の暮らしにおけるシステムの展開を、在宅、施設サービスの展開を通して説明する。併せて、現在増加している認知症高齢者への介護の現状を考えながら今後の高齢者介護の方向性を理解する場としたい。	1．加齢に伴う心身の変化、認知症及び認知症高齢者の実態、高齢者の生活実態（経済、家族関係、人間関係）を踏まえて 我が国における高齢社会の特徴を説明することができる 2．介護保険制度のしくみ、在宅福祉サービスの実態、施設福祉サービスの実態を理解し、高齢者全体への福祉動向を把握している 3．要介護高齢者のみならず、高齢者の住宅動向、地域包括ケアの方向性、介護予防施策の動向について理解している 4．認知症、要介護高齢者を含む高齢者の心身の特徴及び、高齢者福祉制度、福祉サービスを含む社会環境を把握した上で、高齢者支援の現状と課題、今後の方向性について考察できる	◎	◎	○				○	○	△	△	◎	◎	△

専門基礎科目B群	介護論	社会福祉の基本理念を踏まえた上で、人としての尊厳を重視した生活援助の在り方について専門的観点を習得すると共に、専門職としての介護理念を構築する。（1）介護の歴史的背景と社会的動向を理解する。（2）生活支援における介護の目標、役割、機能及び介護の実践性と職業倫理を理解する。（3）生活支援を展開する上での専門職としての基本的知識・専門技術を理解する。（4）個としての人間理解を深め、自立や自己実現を達成するための援助を理解する。（5）needsとQOLの関係性における介護過程を理解する。	（1）介護の歴史的背景と社会的動向について説明できる。（2）生活支援における介護の目標、役割、機能及び介護の実践性と職業倫理について説明できる。（3）生活支援を展開する上での専門職としての基本的知識・専門技術について説明できる。（4）個としての人間理解を深め、自立や自己実現を達成するための援助について説明できる。（5）needsとQOLの関係性における介護過程について説明できる。	○	◎	△				○	◎					○
	障害者福祉論	障害者福祉に関する理念並びに法・制度についての理解を深め、誰もが暮らしやすい社会の在り方について考察する力を養う。そして社会モデルの視点から、総合的に日常生活及び社会生活について考える力を身につける。	1．障害者福祉の理念を説明できる。 2．障害者福祉に関する法・制度を説明できる。 3．生活を総合的に理解、分析し、説明できる。 4．インクルーシブ社会について説明できる。	◎	◎	○	○			○	◎	◎	○	◎	◎	◎
	社会政策論	社会政策は社会保障（保険・医療・年金・福祉）、雇用、貧困・格差対策、社会的包摂、教育・居住など人の「生の健全性」に関する政策体系であるので、そうした政策体系が、どのような価値原理や目標性、方法的特徴をもって構成させてきたのか、基礎的な概念理解や学説比較などを通じて、理解する。その上で、社会政策の国内外における動向や将来の方向性、地域レベルでの社会政策や問題解決のための「新しい公共」について、具体例を交えて理解する。	1．分配的正義、機会的公正、選別的普遍主義、社会的排除・包摂、ワークフェアといった基本概念を説明できる。 2．社会保障・生活支援サービスと雇用との一体推進を説明できる。3．社会政策と地域主権を説明できる。4．社会問題の発生メカニズムや問題の構造を論理的に考察する力がある。5．身近な社会政策上の問題を取り上げ、その発生原因と問題の本質、解決に必要な方法構想を自分で考える力がある。	◎	◎	◎	○	◎	△	◎	◎				◎	◎
	地域福祉論	社会福祉士を含む社会福祉専門職がもつべき価値と倫理を基盤として、地域福祉に関する基本的な概念・理論・実践知識を体系的に学習し、地域福祉の基本的考え方、地域福祉の主体と対象、地域福祉に係る組織、地域福祉の推進方法等について理解を深める。	1.地域福祉の理念および理論を説明できる。 2.地域福祉の推進方法を説明できる。 3.地域における福祉課題を発見できる。	◎	◎	◎				○	△					◎
	国際福祉論	国際福祉の潮流は、人間の福祉の向上や生活側面に注意をはらうべきであるとする「人間開発（human development）」および「社会開発（social development）」へと大きくシフトしている。講義では国内外のさまざまな事象を取り上げながら、先進国、開発途上国、後発開発国における実態と問題点を明確化して、今後の国際福祉のあり方を展望する。	1.世界各国に共通した社会福祉の特徴と課題を広く理解する。 2．国際福祉が今後どのような方向性で展開すべきかを検証できる。	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	○
	医療福祉概論	少子高齢化、疾病構造の変化、医学・医療技術の進歩などにより医療を取り巻く環境も多様化してきている。このような状況の下、社会福祉の専門職として、保健医療（病院等）における医療ソーシャルワーカーの役割も益々重要になってきている。この講義では、医療福祉の歴史、医療ソーシャルワーカーの業務・役割・機能について理解する。	1.医療福祉の歴史について説明できる。 2.医療ソーシャルワーカーの業務・役割・機能について説明できる。 3.医療ソーシャルワーカーとして業務につくことができる。	○	◎	◎	○			○	◎	○	○	○	△	○
	公的扶助論	本講義では、低所得者の生活実態と社会情勢、福祉需要を把握するとともに、生活保護制度の理解に努める。さらに、自立支援プログラムの意義と実際、生活保護制度に関連する諸制度にまで視野を広げて講義していく。	1.貧困の多様性/多義性を理解し、幅広い視点から問題を抽出することができる。 2.生活保護の仕組みを理解し、自己の生活に活かすことができる。 3.制度の概要と相談援助を学び、さまざまな現場で活用することができる。	◎	○	△		△			○					○
	保育実践演習	保育にかかわる課題に関する分析、考察、検討をチームで行うとともに、子どもを援助するための技術、方法等について学修し合う。さらに、問題を発見し、その問題を解決する過程や解決内容について、検討する手法を習得する。そして、既習科目の履修状況や保育実習を通しての学び等を踏まえ、保育士として必要な知識技能を修得したことを確認し合う。 これらを通して、自己の学びから蓄積化された【実践知】を用いて状況との【対話】を重ねつつ、【反省（reflection）】を常態化する実践を軸に、そこから生成されてくる新たな知やスキルを獲得していくという「“能動的学習者”としての保育者」の育成を図る。	1.チームで問題解決に取り組み、成果をアウトプットすることができる。 2.ケースを詳細に分析・検討し、問題解決の過程や方法、理論的根拠等を相互に探求し合い、ＰＤＣＡ型学習を実践できる。 3.保育実践知の探求を通して、互いに高めあいながら、集団の一員として生産的な職能を発揮できる。	◎	○	◎	◎	○	○	○	◎	△	○	△	△	○
専門基幹科目L群	キャリアデザインⅠ	1年生を対象とした講座であり、自分の未来ならびに、やるべきことや目標を認識する。具体的には、自身の基礎的資質・能力を活用し、円滑にワークシートを使用したワークショップを通して、自己の特性、価値観を知り、それを仲間と共有し自己肯定観を育てる。またどんな人生、職業を選ぶか、具体的なキャリアプランを作成し、目的意識を持って大学生活を送る意識付けをする。	『自己理解・他者理解』へのアプローチができる。	◎	○		◎				△	◎	◎	○		
	キャリアデザインⅡ	広く浅く産業社会を知ると同時に、そこで生きて働く自分の将来を見据え、様々な職業、職種、それらの活躍の場である「業界」や実践の場である「組織（企業、行政、病院、福祉施設、学校、NPO、その他）」の基本的知識の修得と動向および現状を理解する。	1.『社会理解』を意識することができる。 2.「広く業界を知る」ことができる。	○	◎	◎	◎			△	○		○		◎	○
	リエゾンゼミⅠ（基礎演習）	「学士力」のベースとなる学習スキルやコミュニケーション能力の基礎に加え、身体的・精神的・社会的な健康の自律的マネジメントに有益な知識・態度も習得し、初めての大学生活に適応できるようになります。地域の課題発見・解決に即したPBLの基礎をチームで学んでいき、座学と実践の統合を通じて建学の精神を体現できるようになります。被災経験に根ざした防災減災の基礎知識を学ぶことで、自分はもちろん地域にも貢献できる人材になります。これらを通じて大学での自分の居場所を見つけ、四年間の大学生活の様々な基礎体力を取得します。UNIPAでの学修ポートフォリオやリエゾンノートなどのサポートツールを活用して主体的自律的な学修態度を体得し、初年次の学びを二年次以降の体系的な学びや将来のキャリア形成にリエゾンできるようになります。	1．建学の精神・教育の理念・大学行事の意義について説明できる 2．ゼミ生や教員、地域の人々とコミュニケーションをとることができる 3．キャンパス・マナーおよび防犯・防災減災に基づいて行動することができる。 4．マイカルテシステムと元気点検票かるたを活用し、生活の自己管理デザインと健康向上行動に主体的自律的に取り組むことができる 5．大学の設備や学習スキル、UNIPA、学修ポートフォリオ等を活用し、学修に主体的自律的に取り組むことができる 6．「地域」をテーマにした問題について、グループでさまざまな観点から探究し、論理的に考え、課題を発見し、解決していくことができる 7．キャリアリエゾンノートや学修ポートフォリオを活用して、自分を理解し、将来の展望を描き、キャリア形成に取り組むことができる 8．学科の教育の目標について説明できる	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○
	リエゾンゼミⅡ（専門基礎演習）	リエゾンゼミⅠを土台に据え、「知識」の修得のみならず、「技能」「態度」「創造的思考力」を各教員の共で醸成する。	「知識」「技能」「態度」「創造的思考力」の4つの学士力の基礎を身につけることができる。	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○
	リエゾンゼミⅡ（福祉実践演習）	本演習を通して、ソーシャルワークの体系から、保育者に必要な基礎的知識・技法の習得と、子ども家庭福祉の現場および保育者による子育て支援・保護者支援の実際の理解を図り、それらの学びを通して保育者によって必要な知識・技術・態度の育成を図る。	1．保育における相談援助の概要、方法と技術、具体的展開について、グループで調べて発表することができる。 2．保育におけるソーシャルワークの実際と事例について、フィールドワークを行うことができる。3．保育ソーシャルワークの学びを通して、他のメンバーと協力し、互いに高め合うことができる。	◎	◎	○	○	△	△		△	○	○			○
	専門演習Ⅰ	リエゾンゼミⅠおよびⅡを前提として、各教員の専門分野のもと、専門性を身につけていく。	1.学士力を修得することができる。 2.専門性を身に付けることができる。	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○
	専門演習Ⅱ	リエゾンゼミⅠおよびⅡ、専門演習Ⅰを前提として、学士力の強化とともに専門性を深める。	1.学士力を修得することができる。 2.専門性をより深く身に付けることができる。	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○
	卒業論文	各人の学ぶ分野を研究し文字化すると共に、プレゼンテーションを行う。	1.専門領域についての「知識・理解」を深めることができる。 2.論文作成能力や情報コミュニケーション技術活用力や論理的思考力などの汎用的技能を修得することができる。	○	○	◎		◎	△	◎	◎					◎
	社会福祉援助技術論Ⅰ	社会福祉士の業務を理解するとともに、「人」と「環境」を視点として、個人、家族、小集団・組織、地域社会が有するニーズなどについて考察する。そこで使われるソーシャルワークの定義、枠組み、ソーシャルワークの構造、機能などについて理解する。	1.社会福祉士としての専門的知識・技術について説明できる。 2.さまざまなソーシャルワークのアプローチについて説明できる。 3.社会福祉士として業務につくことができる。	○	◎	◎	△			△	◎	△	△	△		○
	社会福祉援助技術論Ⅱ	総合的且つ包括的な相談援助＝ソーシャルワークの理解を深めるよう講義を行う。ソーシャルワークの基本的枠組みをエコシステム論におき、さまざまなシステムにおけるソーシャルワーク実践に必要な技術について検討する。具体的には、家族や集団への援助、社会資源を活用したケースマネージメント、チームアプローチ、社会資源の開発、援助者をとりまくソーシャルワーク環境について個別に理解すると共に、エコシステム論自体及び他の授業科目で学習した内容も含め、社会福祉援助技術およびその実践の統合的理解につなげる。その過程で、ソーシャルワークの価値や人権への配慮がどのように実践現場で実現されていくのかについても紹介する。	1. ソーシャルワークの概念枠組み＝エコシステム論を説明することができる。2. ソーシャルワークが援助対象とするシステム（家族、利用者集団、援助者集団、地域社会）に介入する際の各援助技術について説明／文章化することができる。3. 事例や関連分野の文献をもとに各援助技術の意義を考えそれを文章化することができる。4. エコシステム論をもとに事例を理解し、各援助技術がどのように使用されているかについて指摘することができる。5. 各援助技術を統合的に使用した援助計画を考えることができる。6. ソーシャルワークの価値観・人権への配慮について理解を深め、価値のジレンマを指摘し、ソーシャルワーク実践を評価することができる。	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	○	◎	○	◎	◎	◎
	社会調査の基礎	講義では、社会調査の意義と目的及び方法について教授するとともに、統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報保護についての理解を深める。また、量的調査の方法及び質的調査の方法について実際例を提示しながら解説する。	1．社会調査とは何かを理解し、社会調査の基本プロセスについて説明できる。2．さまざまな調査報告書を読みこむことができる。	○	◎	○	△	◎	◎	◎	◎	○	△	◎	△	△

専門基幹科目A群	福祉計画法	ゴールドプランにはじまった福祉の計画は、今日ではエンゼルプランや障害者プラン、地域福祉計画など多くの福祉計画が策定されています。福祉計画のもとどなる法やそれぞれの計画との関係性を理解します。そうしたなかで、福祉計画のもつ社会的意味について理解することを目的とします。	1．都道府県や市町村の総合計画のあり方、計画策定の手順、考え方を説明できる。 2．計画のスケルトンから計画のあり方、そのなかでの福祉計画の位置づけを説明できる。 3．基本構想から実施計画までの流れを説明できる。 4．基本的な人口の推移から福祉支援の現状と供給体制のあり方を考えることができる。		◎	○	△		◎		○		○		○	◎
	福祉経営論	福祉サービス提供組織として利用者をどのように支援していくのか、そのための組織のあり方を学ぶ。 ユニットケア、グループホーム、小規模多機能型居宅介護などの事例も含めて、福祉サービス提供組織の理論と実際を理解する。	福祉サービス経営者としての法人の役割を説明できる。 職員をサポートしリードしていく管理者の役割を理解し、説明できる。 福祉サービスの質を保証し、利用者の選択と意見を取り入れていく仕組みや第三者評価を説明できる。 職員の待遇、人材の確保、人材の育成を理解し、説明できる。 会計財務管理の基本を理解し、説明できる。 経営学の基礎知識を理解し説明できる。	◎	◎	◎		◎		◎	◎			◎		◎
	保健医療サービス論	日本における保健医療サービスはいつでも安心して医療を受けられる国民皆保険によって支えられてきた。しかし、高齢社会の進行とともに医療保険制度をはじめ、保健医療サービスはさまざまな分野で変更がなされている。医療は我々に非常に身近であり、誰にでも必要なものであるが、意外と知られていないことも多い。本講義では身近な疑問に答えられるように、医療現場の現状や医療・保健分野の仕組みについて講義していく。また、医療ソーシャルワーカーの役割についても理解する。	1．保健医療サービス分野における諸制度が理解できる。 2．医療保険について理解し、さまざまな具体的事例に対応できる。 3．医療ソーシャルワーカーの業務を知ることができる。 4．社会福祉士に必要な知識を習得できる。	◎	◎	○				△	○			△	△	○
	就労支援サービス論	労働の意味や現状を社会福祉に関わる視点から理解し、就労支援の基礎となる労働者の権利保障に関する法制度の体系を学び、障がい者や低所得者への支援の内容、方法技術について、また、現状の問題点について講義する。	1.就労の意味や社会福祉との関係、現代の労働を取り巻く状況を正しく認識できるようになる。 2.働くものの権利を保障する法律と制度の基本を知り、活用することができるようになる。 3.障がい者や低所得者を対象とした就労支援の現状と課題を理解する。 4.障がい者や低所得者を対象とした就労支援の方法と内容を知り、その基本的な技術を身につけることができる。	○	◎	○				○	◎	△			△	○
	医学一般Ⅰ	人体の構造を理解し、障害とは何かを学ぶ。また、リハビリテーションについての理解も深める。基礎医学、臨床医学および国際生活機能分類について講義し、人体の基礎構造、代表的疾病、健康の概念を把握する。	1.障害の意味と内容を理解できる。 2.健康概念の多様性が理解できる。 3.疾病の構造が理解できる。													
	社会福祉援助技術演習Ⅰ	社会福祉専門職に求められる援助技術に係わる基本的知識と技術を演習形式により実践的に習得する。 ・社会福祉援助技術の基盤となる価値、倫理について体験的に理解する・その際に必要となる専門職としての自己覚知を体験する・社会福祉援助技術の基礎であるコミュニケーション能力を身につける・基本的な面接技術を身につける・実際の援助過程を事例研究を通して理解する	1) 視点・モデル・アプローチなど社会福祉援助技術の枠組みが説明できる2) 社会福祉専門職としての「自己」について、客観的な視点から述べることができる3) 社会福祉の価値、倫理について説明できる 4) 言語的、非言語的コミュニケーション技術の基礎を演習の場で実践できる5) 社会福祉援助技術の過程を、事例を通し具体的にイメージし、説明できる6) 社会福祉援助技術の基盤と専門性について説明できる													
	社会福祉援助技術演習Ⅰ（旧カリ）	本演習を通して、自己理解や他者理解について学習を深めるとともに、具体的な援助場面を想定した技術指導（ロールプレイング等）を実施し、具体的実践能力の習得をはかる。グループワークや事例を通して社会福祉援助技術の基本的知識・技術について学習し、利用者理解・社会生活上の課題理解を深める。	具体的な援助場面を想定して、相談援助に係わる知識・技術を活用することができる。また、事例を通して、利用者理解・社会生活上の課題理解を深め、問題解決に取り組むことができる	◎	◎	○	○	△	△		△	△	○			○
	社会福祉援助技術演習Ⅱ	社会福祉専門職に必要とされる専門知識、専門技術の習得や、専門職として求められる援助技術の一連の過程を理解する具体的なテーマは以下の通り。 ・支援計画立案に関する基本的知識、技術の理解・社会資源の活用、開発、ネットワーク形成に関する知識、技術の理解・社会生活上の課題、環境の中の個人に対する理解を深める	1)一連の援助過程を具体的イメージをもって説明できその基本的技術を演習場面において実践できる 2)事例などから支援計画を作成できる 3) 社会資源の活用やネットワーク形成の技術について具体的に説明できる 4) プロセス評価、効果測定についてその方法を説明できる													
	社会福祉援助技術演習Ⅲ	地域生活支援によって社会的包摂をめざす社会福祉専門職に必要とされる知識、技術を理解する。 ・虐待などの社会問題の発生機序を知り、具体的な支援方法を理解する・社会的排除をキーワードにホームレス、犯罪者、外国人などへの支援方法について、社会資源開発、ソーシャルアクションなども含め具体的に理解する・これまでの体験的な学習の一般化、体系化を図り、社会福祉援助技術理論との統合をめざす	1)虐待や社会的排除などが発生する原因、過程を具体的に説明できる 2) ミクロからマクロまでの連続体としての支援過程を説明し、その視点で事例の解釈ができる 3) 地域生活支援を基盤とした地域福祉の方法（ネットワークの形成や支援システムの構築など）を演習の場で模擬的に実践できる													
	社会福祉援助技術実習指導	実習指導Ⅰ　ソーシャルワークや社会福祉士についての理解を深めるとともに、相談援助実習の意義や内容について確認しつつ実習準備を行っていく。具体的には、学生自身の動機・目的の確認、実習内容の理解、実習先の選択、実習に必須な知識の獲得・再整理を進める。体験学習も含め、その過程で学生自身が自身のソーシャルワークへの適性を考察し、ソーシャルワーカーに必要な態度や価値観への理解を深める。実習指導Ⅱ．実習前においては、実習生として必要なソーシャルワークの価値や必要知識・技術を確認する。さらに、実習計画を学生、教員、実習先が協議しながら作成し、学生の実習目的・目標・課題を明確化する。実習中は、実践を媒介に教員と実習指導者が協力しながら、相談援助について学生の理解を促進させ、実習目標の達成を目指す（巡回指導、帰校日指導、随時個別指導など）。実習後は、学生の実習体験を整理することにより、相談援助の知識と技術についての理解の深化につなげる。更にその過程において、学生が実習体験を考察し、ソーシャルワーカーとしての自身の課題に気づいていく。	実習指導Ⅰ　1. 社会福祉士の業務や相談援助実習の内容を理解し、実習目的を明確に述べることができる。2. 実習機関や地域、関連制度について情報を収集しそれらを文章化することができる。3. 実習に向けて自身の日常生活を管理し心身ともに健康に保つことができる。4. これらの準備の過程において社会福祉士への自身の適性を考察した上で、実習目標や課題を整理し言語化できる。5. 教員や実習先と協議しながら実習計画案を作成することができる。 実習指導Ⅱ　1. 実習前には、実習先や教員と協議のうえ、自身の実習目標、課題に基づいた実習計画を完成させることができる。2. 実習前後をふくめ、自己管理を行い、心身を健康に保つことができる。3. 実習中は、実習指導者や教員による指導を積極的に活用し、相談援助について実践しつつ学ぶことができる。4. 日々実習の振り返りを行い考察を深め、それらを実習記録に文章化することができる。3. 実習後は、実習体験を整理・言語化し、他の学生と共有することができる。4. 実習体験の考察を深め、それらを文章化することができる。5. 実習体験をふりかえる過程で相談援助に必要な知識や技術を確認し、自身のソーシャルワーカーとしての課題を言語化することができる。	実習指導Ⅰ◎ 実習指導Ⅱ◎	実習指導Ⅰ◎ 実習指導Ⅱ◎	実習指導Ⅰ○ 実習指導Ⅱ◎	実習指導Ⅰ◎ 実習指導Ⅱ◎	実習指導Ⅰ◎ 実習指導Ⅱ◎	実習指導Ⅰ◎ 実習指導Ⅱ◎	実習指導Ⅰ○ 実習指導Ⅱ◎	実習指導Ⅰ○ 実習指導Ⅱ◎	実習指導Ⅰ◎ 実習指導Ⅱ◎	実習指導Ⅰ○ 実習指導Ⅱ◎	実習指導Ⅰ◎ 実習指導Ⅱ◎	実習指導Ⅰ◎ 実習指導Ⅱ◎	実習指導Ⅰ○ 実習指導Ⅱ◎
	社会福祉援助技術現場実習	社会福祉士の実践現場を理解し、総合的に対応できる能力を習得する。 関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。 実習機関内での社会福祉士の役割を理解し、経営・サービス・管理運営の実際を学習する。	1.利用者及び関係者との円滑な人間関係形成することができる。 2.利用者理解と受容ができる。 3.アセスメントと支援計画の作成ができる。 4.利用者及び関係者との援助関係の形成ができる。 5.利用者及び関係者への権利擁護を行うことができる。 6.利用者及び関係者をエンパワメントできる。 7.利用者及び関係者への支援評価ができる。 8.多職種連携の意義と方法を理解し、実践できる。 9.チームアプローチの実際を理解し、実践できる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
専門基幹科目B群	精神医学	近年、精神障害者の社会復帰施策をはじめ、自殺数の増加や災害ストレスの問題などが注目され、精神医学的知識への関心が高まっている。本講義では精神医学の成り立ちから説明し、精神医学関連の基礎知識、精神科診断の手順、各種精神障害とその治療法について理解することを目的とする。さらに、病院精神科医療、地域精神科医療についても解説し、社会的視点からの理解も深める。	1.精神障害者の状況を医学的側面から理解できる。 2.治療方法の基礎を理解できる。 3.地域精神科医療を社会的視点から理解できる。													
	精神保健学	既に精神障害をもつ人たちに対する支援に加えて、現代社会で生きる誰もが抱える課題である精神障害の予防と心の健康の増進を図ることが精神保健の目的である。本講義では、ライフサイクルや生活の場と精神保健の関連、精神障害とその支援の枠組みなど精神保健に関する基礎知識と重要な理念に加えて、精神障害とその治療について学習する。また、既存のシステムや制度の紹介にとどまることなく、この分野での最新の知識を提供する。	1.精神障害の状況について理解できる。 2.精神障害の予防と心の健康の増進について理解できる。 3.精神障害者を取り巻く制度と最新のシステムを説明できる。													
	精神保健福祉援助技術総論Ⅰ	本科目は国家試験における精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）について講義を行う。社会福祉士、精神保健福祉士について、また、相談援助について理念的・理論的理解が行えるよう進めていく。前提として、対象者理解も併せて行っていく。	1．社会福祉士・精神保健福祉士の役割と意義について説明できるようになる。 2．相談援助の概念と範囲について説明できるようになる。 3．相談援助の理念について説明できるようになる。 4．相談援助における権利擁護の意義と範囲について説明できるようになる。 5．相談援助に係る専門職の概念と範囲および専門職倫理について説明できるようになる。 6．総合的かつ包括的な援助と他職種連携の意義と内容について説明できるようになる。													
	精神保健福祉援助技術総論Ⅱ	本科目は国家試験における精神保健福祉相談援助の基盤（専門）について講義を行う。精神保健福祉士の業務を理解するとともに相談援助における権利擁護、相談援助の形成過程、体系並びに精神保健福祉活動における総合的・包括的な支援について学ぶ。また多職種との連携についても学習する。	1.精神保健福祉士としての専門的知識・技術について説明できる。 2.さまざまなソーシャルワークのアプローチについて説明できる。 3.多職種連携について説明ができるようになる。 4．精神保健福祉士として業務につくことができる。													
	精神保健福祉の理論	障害者福祉の理念と精神障害者の置かれてきた歴史的状況を理解し、精神障害者の人権について学ぶ。また精神保健福祉領域における最近の動向についても学習する。	1．ノーマライゼーションについて説明ができるようになる2．精神障害者の人権問題について説明できるようになる。3．精神保健福祉の歴史について説明できるようになる。4．精神保健福祉領域の動向について説明できるようになる。													

専門基礎科目群	精神障害者の生活支援システム	精神障害者が制度的どのような状況に置かれているかを理解し、実際に地域で暮らす上で必要とされている支援とは何かについて学ぶ。	1．精神保健福祉領域の制度について説明ができるようになる。2．精神障害者の生活実態について説明できるようになる。3．精神障害者に対する居住支援について背梅井できるようになる。4．精神障害者の就労支援について説明できるようになる。														
	精神保健福祉援助演習Ⅰ	関連科目との関連性を踏まえ、精神保健福祉援助の基礎的知識と技術の習得を図る。	1．精神保健福祉援助に係る知識と技術について、事例を通して活用できるようになる。2．対人援助に必要な基礎的コミュニケーション技術を活用できるようになる。														
	精神保健福祉援助演習Ⅱ	精神障害者の生活のしづらさについて理解し、精神保健福祉士として求められる専門的知識と技術を概念化・理論化できる能力の習得を目的とする。また、利用者理解、社会生活上の課題について総合的かつ包括的相談援助、医療との連携、協働の在り方について学ぶ。	Ⅰ．精神障害者の生活のしづらさについて説明できるようになる。2．様々な事例に対処できる概念・理論が保てるようになる。														
	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	相談援助実習の意義について理解し、具体的かつ実践的な技術等を体得していく。さらに精神保健福祉士として求められる資質・技能・倫理・自己課題等の総合的な対応能力の取得を図る。	1．自分の体験したことを言語化できるようになる。2．実習施設に対する基本的理解ができるようになる。3．実習に向けて計画案を作成することができるようになる。														
	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	実習Ⅰで学んだことを基に振り返り、精神保健福祉士についての理解を深めるとともに、病院における相談援助実習の意義や内容について確認しつつ実習準備を行っていく。具体的には、学生自身の動機・目的の確認、実習内容の理解、実習先の選択、実習に必須な知識の獲得・再整理を進める。体験学習も含め、その過程で学生自身が自身のソーシャルワークへの適性を考察し、ソーシャルワーカーに必要な態度や価値観への理解を深める。実習指導Ⅱ．実習前においては、実習生として必要なソーシャルワークの価値や必要知識・技術を確認する。さらに、実習計画を学生、教員、実習先が協議しながら作成し、学生の実習目的・目標・課題を明確化する。実習中は、実践を媒介に教員と実習指導者が協力しながら、相談援助について学生の理解を促進させ、実習目標の達成を目指す（巡回指導、帰校日指導、随時個別指導など）。実習後は、学生の実習体験を整理することにより、相談援助の知識と技術についての理解の深化につなげる。更にその過程において、学生が実習体験を考察し、ソーシャルワーカーとしての自身の課題に気づいていく。	1．実習体験を明確に文章化できるようになる。2．実習体験の課題を言語化できるようになる。3．自己覚知ができるようになる。														
	精神保健福祉援助実習Ⅰ	地域における精神保健福祉援助の現場を理解し、総合的かつ包括的な地域支援について学習する。 関連分野の専門職との連携のあり方及び社会資源の活用方法について、その具体的内容を実践的に理解する。 実習機関内での精神保健福祉士の役割を理解し、経営・サービス・管理運営の実際を学習する。	1.利用者及び関係者との円滑な人間関係形成することができる。 2.利用者及び関係者との援助関係の形成ができる。 3.アセスメントと支援計画の作成ができる。 4.利用者及び関係者をエンパワメントできる。 5.利用者及び関係者への支援評価ができる。 6.多職種連携の意義と方法を理解し、実践できる。 7.チームアプローチの実際を理解し、実践できる。 8.自己覚知をすることができる。 9.実習内容についての記録を書くことができる。														
	精神保健福祉援助実習Ⅱ	実習Ⅰで学んだことを基に課題を整理し、精神保健福祉の現場へのより深化した理解を習得する。病院の現状を理解すると共に、精神保健福祉士の役割、多職種との連携、チーム医療の実際について学ぶ。利用者や家族への相談援助の在り方を実践的に理解する。精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握当総合的に対応できる能力を習得する。	1.利用者及び関係者との円滑な人間関係形成することができる。 2.利用者及び関係者との援助関係の形成ができる。 3.アセスメントと支援計画の作成ができる。 4.利用者及び関係者をエンパワメントできる。 5.利用者及び関係者への支援評価ができる。 6.多職種連携の意義と方法を理解し、実践できる。 7.チームアプローチの実際を理解し、実践できる。 8.自己覚知をすることができる。 9.実習内容についての記録を書くことができる。														
	精神保健福祉援助実習	これまで学んだことを基に振り返り、精神保健福祉士についての理解を深めるとともに、実習先における相談援助実習の意義や内容について確認しつつ実習準備を行っていく。具体的には、学生自身の動機・目的の確認、実習内容の理解、実習先の選択、実習に必須な知識の獲得・再整理を進める。体験学習も含め、その過程で学生自身が自身のソーシャルワークへの適性を考察し、ソーシャルワーカーに必要な態度や価値観への理解を深める。実習前においては、実習生として必要なソーシャルワークの価値や必要知識・技術を確認する。さらに、実習計画を学生、教員、実習先が協議しながら作成し、学生の実習目的・目標・課題を明確化する。実習中は、実践を媒介に教員と実習指導者が協力しながら、相談援助について学生の理解を促進させ、実習目標の達成を目指す（巡回指導、帰校日指導、随時個別指導など）。実習後は、学生の実習体験を整理することにより、相談援助の知識と技術についての理解の深化につなげる。更にその過程において、学生が実習体験を考察し、ソーシャルワーカーとしての自身の課題に気づいていく。	1．実習体験を明確に文章化できるようになる。2．実習体験の課題を言語化できるようになる。3．自己覚知ができるようになる。														
	介護概論	介護を必要とする人を生活の観点から捉え、その人らしさ、尊厳、自立支援を基本にした介護の考え方を理解する。介護の意義、役割、専門性、職業倫理、介護における安全とチームケアについて理解する。	介護福祉士の役割と専門性を説明できる。職業倫理に基づいた介護実践の重要性について説明できる。介護における安全確保の方法とその重要性を説明できる。チームケア、多職種連携の方法とその重要性を述べることができる。	○	◎		○	△		○	△	○	△	◎		
	介護福祉論Ⅰ	介護の意義と役割及び専門性について、介護の歴史や関連法規を通して理解する。 介護実践の基本的姿勢について、介護の倫理を通して理解する。 利用者の安心した生活環境の理解と関係職種間の連携のあり方について理解を深める。	介護福祉士を取り巻く状況や背景を、介護の歴史を通じて説明できる。 社会福祉士法及び介護福祉士法を用いて、介護福祉士の倫理を説明でき。 安心して生活できる環境を整えるため、介護現場の事故防止や安全対策について文章化できる。	◎	◎	△	○	△		○	◎	◎	○	○		○
	介護福祉論Ⅱ	尊厳保持、自立支援の観点から、介護を必要とする人の個別性や多様性を的確に捉え、一人ひとりにとってのWell-beingを目指した利用者主体の生活支援を展開するために、ICFの概念、生活機能分類について理解する。また、尊厳を支える生活支援を展開するための知識や実践理論の習得を通して、介護理念、専門性を涵養する。（1）QOLの概念を理解する。（2）ノーマライゼーションを理解する。（3）エイジングとサクセスフル・エイジングを理解する。(4)自立支援と個別ケアを理解する。（5）ICFを理解する。	（1）QOLの概念について説明できる。（2）ノーマライゼーションについて説明できる。（3）エイジングとサクセスフル・エイジングについて説明できる。(4)自立支援と個別ケアについて説明できる。（5）ICFについて説明できる。	○	◎	△	○	△		○	◎	◎	△	△		○
	リハビリテーション論	リハビリテーションの概念や思想、歴史を概観し、実際に行われている様々な障害に対するリハビリテーションアプローチの考え方や過程を紹介していく。さらに、リハビリテーションの対象者である障害を持つ人々がそれぞれの住み慣れた環境の中で生活を維持し、社会へ参加していくために必要となるリハビリテーションの基本的な考え方や障害予防などを学ぶ。	①リハビリテーションの目的を理解し、説明できる。 ②リハビリテーションのあり方や役割を理解し、説明できる。 ③対象者の生活を支援する視点を理解し、説明することができる。	◎	○	△				△	◎	◎		○		○
	家政学概論	一人ひとりの生活者としての意向や生き方、生活習慣など、その人らしさ（個別性）を尊重した介護実践を展開するための生活管理について習得する。家庭生活の意義を理解し経営能力を養うことを目的に住生活についての意義を理解するとともに、安全で快適な生活管理を行う能力を養う。	総合科学として人間生活の基礎を科学的に解明する。生活の充実と向上のために、家庭生活を中心に据え、さらに社会に視野を広げながら、家庭生活の経営と管理、家庭経済、食生活、衣生活、住生活など各専門分野を学ぶ。	◎	◎	◎	○			○	◎	◎	◎		◎	
	介護技術Ⅰ	介護実践介護実践の目的に基づいた生活支援を展開するための知識や実践理論の習得を通して専門技能を体得すると共に、介護理念、専門性を涵養する。（1）介護実践技術の基本目標、介護観を理解する。（2）生活支援の展開における基本介護の意義、目的、専門知識等の理論的背景に基づいた介護技術を理解する。（3）生活支援を展開する上での関係構築のための対人援助技術を理解する。（4）日常生活援助技術を理解する。	(1)介護実践技術の基本目標、介護観について説明できる。 （2）生活支援の展開における基本介護の意義、目的、専門知識等の理論的背景に基づいた介護技術を実践できる。 （3）生活支援を展開する上での関係構築のための対人援助技術を実践できる。（4）日常生活援助技術を実践できる。	○	○	◎	◎			◎	◎	○	○	○		○
	介護技術Ⅱ	介護実践の目的に基づいた生活支援を展開するための知識や実践理論の習得を通して専門技能を体得すると共に、介護理念、専門性を構築する。（1）生活支援の展開における基本介護の意義、目的、専門知識等の理論的背景に基づいた介護技術を理解する。（2）日常生活援助技術を理解する。（3）疾病、形態・機能に応じた専門知識・技術を理解する。（4）QOLを保障する上での状態アセスメント技法とその援助技術を理解する。	（1）生活支援の展開における基本介護の意義、目的、専門知識等の理論的背景に基づいた介護技術を実践できる。 （2）日常生活援助技術を実践できる。（3）疾病、形態・機能に応じた専門知識・技術を実践できる。（4）QOLを保障する上での状態アセスメント技法とその援助技術を実践できる。	○	○	◎	◎			◎	◎	○	○	○		○
	介護技術Ⅲ	介護実践に基づいた生活支援を展開するための知識や実践理論の習得を通して専門技能を体得すると共に、専門職者としての介護理念、専門性を確立する。（1）実践を体系化するための記録方法を理解する。（2）日常生活の維持・拡大のための住環境整備及び福祉機器・用具について理解する。（3）医療対応時の専門知識と対応技術を理解する。（4）ライフサイクルにおけるターミナル期の援助方法・技術を理解する。	（1）実践を体系化するための記録方法を実践できる。 （2）日常生活の維持・拡大のための住環境整備及び福祉機器・用具について説明できる。（3）医療対応時の専門知識と対応技術を実践できる。（4）ライフサイクルにおけるターミナル期の援助方法・技術について説明できる。	○	○	◎	◎			◎	◎	○	○	○		○

専門基礎科目C群	家政学実習	家政学概論で学んだ衣・食・住生活の内容について理解を深める実習を行う。	前期：家政学概論で得た知識を元に、実習を通して理解を深める。食生活（和泉）、住生活（柱）、衣生活（玉田）に関する実習を通して、実践的な力を養う。衣・食・住の各分野の内容をそれぞれの教員が10回ずつ担当する。したがって家政学実習と||を合わせて評価を行う。後期：家政学概論で得た知識を元に、実習を通して理解を深める。食生活（和泉）、住生活（柱）、衣生活（玉田）に関する実習を通して、実践的な力を養う。	◎	◎	◎	○			○	◎	◎	◎		◎	
	手話・点字	1．点字の概要を学ぶ2．授業中の点字表記法説明（語の書き表し方、文の書き表し方、分かち書きの規則、記号類など）の後、実技を通して、書き方を学ぶ。さらに書き方宿題を通して定着を図る。3．読み方問題を通して、点訳文を漢字仮名交じり文に墨訳することを学ぶ。これにより点字の書き方の規則の理解をさらに深めることも目的とする。	1．点字を読んで漢字仮名交じり文にすることができる。 2．点字で簡単な文章を書くことができる。	○	◎	◎	◎				○	○	○			○
	レクリエーション活動援助法	語源や定義、これまでの社会背景からレクリエーションの意義について理解を深めます。レクリエーション支援者は、レクリエーション種目の単なる伝達だけでなく、レクリエーション活動によって人間同士の触れ合いが促進され、新しい集団作りをすすめ、社会参加や人生の価値への染きに繋がっていることを理論・演習・実技で展開していきます。	レクリエーション活動の社会的意義を理解します。レクリエーション活動の援助者としての役割について理解します。福祉レクリエーション援助における対象者と支援者の理解を深め、実践的な知識と技術を習得します。レクリエーションの体験を通して様々な領域のレクリエーション財や活動の楽しさ・面白さを理解します。また、ホスピタリティを意識したコミュニケーション能力を身につけます。	◎	○	◎	◎			○	○		◎		◎	◎
	形態別介護過程Ⅰ	ICFの概念に基づき、介護を必要とする人の障害や身体的・精神的・社会的状況、参加・活動の状況、環境等を総合的に把握して、介護過程を展開する方法を学ぶ。特に、運動機能障害、認知症、視覚・聴覚・言語障害、発達障害のある人の場合について学習する。	利用者の状態にあった介護過程の展開、特にICFに基づいたアセスメントと介護計画立案までを記述することができる。運動機能障害、認知症、視覚・聴覚・言語障害、発達障害のある人の状態のアセスメントを文章化できる。	○	◎	○	○	○		○	○			○		○
	形態別介護過程Ⅱ	ICFの概念に基づき、介護を必要とする人の健康状態・心身機能・活動・参加・環境因子・個人因子を把握して介護過程を展開する方法を学ぶ。特に、精神障害、心臓、呼吸、腎臓・膀胱・小腸・直腸機能障害、高次脳機能障害、ALS、のある人の場合について学習する。	利用者の状態にあった介護過程を展開しアセスメントと介護計画立案までを記述することが出来る。	○	◎	◎	○	○	○	○	○					○
	介護過程論	一人ひとりにとってのWell-beingを目指した利用者主体の介護過程を展開し、適切なケアサービス・生活の質を保障が展開できる能力を涵養する。ICFの概念に基づき、個別の生活課題や潜在能力を引き出すためのアセスメント、自立支援に沿った介護計画の立案・実施・評価、他職種協働によるチームアプローチの必要性を理解する。	(1)介護の目的・目標と介護福祉士の役割について説明できる。(2)介護を必要とする人々について説明できる。(3)生活課題解決のための方法論について説明できる。(4)介護過程展開方法について説明できる。(5)個別に応じた介護過程の展開方法について説明できる。	○	◎	◎	○	○	○							○
	介護実習指導演習Ⅰ	様々な生活の場における介護実習の教育効果を上げるための学習を実習前後に行う。実習前に、社会に出て介護実践することの意義を理解し、介護技術の確認等実践の準備を行う。実習後に振り返りと学生同士の情報共有等を行い、学内で学んだ知識・技術と介護実践体験を統合する場とする。	社会人としての心構えを述べることができる。施設や在宅での利用者に対する介護の必要性を説明できる。利用者や家族との人間関係形成の重要性を述べることができる。介護実践の根拠を説明できる。自分の課題を見出し、今後の展望を述べることができる。	○	◎	○	○	○	△	○	○	◎	◎	◎	○	○
	介護実習指導演習Ⅱ	さまざまな生活の場における、介護実習の教育効果をあげるための学習を実習前後に行う。理論と実践を融合し学ぶことの意義を理解する。実習後には振り返りを行い実践知を高めるための理論の概念化をはかる。	社会人としての心構えを述べることが出来る。施設での利用者に対する介護の必要性を説明できる。利用者や家族との人間関係形成の重要性を述べることが出来る。介護実践の根拠を説明できる。自分の課題を見出し、今後の展望を述べることができる。	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○			◎
	介護実習Ⅰ	人間関係を形成しながら、地域社会で暮らす高齢者や障害者の生活状況を理解する。 個別ケアの実践の重要性を学習する。 利用者の状況に応じて、基本的な介護技術を適切に行なう必要があることを体験学習する。	生活状況を観察し、適切に言語または記録で表現できる。 コミュニケーションを実践し、利用者、家族、他職種との人間関係を形成できる。 利用者の個別性を理解し、基本的介護技術を実践できる。	◎	◎	◎	◎	○		◎	○	◎	◎	◎	◎	◎
	介護実習Ⅱ	介護過程のプロセスを展開し、利用者への介護実践を学ぶ。 介護計画を具体的に実践し、評価、計画の修正が行えるよう学習する。 利用者の状況に応じて、適切に介護技術が行えるよう行動する。	個別の担当利用者の介護計画を作成し、実施後の評価修正が行える。 カンファレンスにおいて、説明でき、連携を図ることができる。 障害の状況などを理解、判断し、安全な介護技術を提供できる。	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	認知症の理解と支援Ⅰ	認知症の疾患やその特徴、中核症状、周辺症状（BPSD）を医学的側面から基礎知識を習得し、そこから生じる日常生活への影響について理解する。	認知症患者を支援するために必須である、認知症疾患における各疾患・症状・治療に関する医学的知識を習得できる。	◎	◎	○		△		△	○	◎		○	○	○
	認知症の理解と支援Ⅱ	認知症の歴史的背景や政策、認知症を取り巻く社会の現状について理解を深める。また、認知症の原因となる主な疾患や症状の特徴を習得し、それらによって引き起こされる機能の変化や日常生活への影響を理解する。認知症高齢者の内的（主観的）世界を理解し尽上で、個々に合った的確なケアのあり方について涵養する。さらに地域で生活する認知症とその家族への支援体制について理解する。	(1)認知症の原因となる疾患やその症状の理解では、日常生活への影響として見られる中核症状、周辺症状（BPSD）を説明できる。(2)症状が及ぼす認知症の方の心の変化、生活面への影響、支える家族の心の変化や生活面の影響について理解し、その支援のあり方を思考できる。(3)サポート体制では、地域社会や社会制度などの人間関係や生活環境について理解し、その環境に働き掛けることの重要性について説明できる。(4)認知症の方が尊厳を持ち人生を継続していくために、認知症の病気の理解や日常生活への影響の理解、介護のあり方の本質について学び理解することがケアの質の要因となることを説明できる。	◎	○	○		○		○	○	○				○
	老年心理学	前期では、人間は生まれてから最期をむかえるまで発達する存在であるという生涯発達心理学の立場を理解する。その後乳幼児期から高齢期に至までの発達の特徴をまとめ、それぞれの発達段階の課題を理解する。また加齢に伴う身体の変化と支援のあり方について考える。 後期では、心理学からみた加齢の特徴を認知機能の変化や感情、人格の変化、高齢期の対人関係や心の健康の問題などを幅広く理解する。特に認知症の問題については、家族を含めた問題として理解し、ケアのあり方を具体的に理解する。最後に高齢期と死の問題に関しては、心理とケアのあり方について具体的に考える。	人間の成長と発達を生涯発達心理学の見地からとらえることができ、生涯にわたる人間の発達を体の変化や機能の変化の面から理解できる。また認知機能や感情、人格、対人関係などの心理学的変化を系統的に理解し、特に高齢期に多い認知症に関しては、疾患の特徴や心理的特徴、ケア、家族に対する支援など、心理社会的支援の方法を具体的に理解できる。最後に高齢期の死の問題について、その心理とケアのあり方について自分なりに考えることができる。	◎	◎	○		○		○	◎	△		○		○
	障害者の心理	講義は3段階に分けて進める。ます、障害者福祉や障害のある人の心理を理解するための理論や、発達とその障害について全般的な理解を進め、援助者のあり方や位置づけについて学ぶ。その後、障害の形態別に特有の心理的特徴や介護・支援上の留意点を理解していく。最後にそれらを踏まえて、障害受容や援助者の心理、リハビリテーションなど、介護による具体的な対応・援助を行う際に必要な理論と方法を学ぶ。	1．認知的領域：知識・理解 (1)障害者福祉・発達とその障害の基本的な理論を理解し、その理論から障害のある人の心理が説明できる。 (2)障害受容や援助者の心理、リハビリテーションなど、介護による具体的な対応・援助を行う際に必要な理論と方法を知り、具体的な援助場面例において行うべき対応を選択できる。 2．認知的領域：思考・判断 障害の形態別に特有の心理的特徴を知り、そこから介護・支援上の留意点を考察できる。 3．情意的領域：態度 援助者のあり方や位置づけについて、具体例をあげて自分の言葉で述べることができる。	◎	◎	○		○		○	◎	△		○		○
	障害の基礎医学	ます、障害の考え方について学ぶ。 そのあとに、個々の障害について背景となる医学的知識を身につける。	障害の基礎にある基本的な医学的内容を説明できる。	◎	◎	○		○								△
	医学一般Ⅱ	医学一般の講義を通して、生活支援技術の根拠となる人体の構造や機能、終末期ケアについて理解する。また、機能低下が及ぼす影響、および、介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解し、利用者の尊厳の尊重と自立を支援するための適切な介護方法を導き出すことを習得する。	1.移動に関連したのしくみ、食事に関連したしくみ、入浴・清潔保持に関連したしくみが理解できる。 2.人間の身体機能の変化と影響について説明できる。 3.生活支援技術の根拠となる人体の構造や機能および介護サービスの提供における安全の留意点や心理的側面への配慮ができる。	◎	○	○	△	△		△	◎	◎	△	○		○
	医学一般Ⅲ	医学一般の講義を通して、生活支援技術の根拠となる人体の構造や機能、終末期ケアについて理解する。また、機能低下が及ぼす影響、および、介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解し、利用者の尊厳の尊重と自立を支援するための適切な介護方法を導き出すことを習得する。	1.睡眠と終末期ケアを学び、人間の身体機能の変化と影響について説明できる。 2.生活支援技術の根拠となる人体の構造や機能および介護サービスの提供における安全の留意点や心理的側面への配慮ができる。	◎	◎	◎	△	△		△	◎	◎	△	○		○
	保育原理	保育の意義、保育所保育指針における保育の基本、保育の内容と方法の基本について理解する。また、保育の思想と歴史的変遷について理解を深め、保育の現状と課題について考察する。	・保育所保育指針および幼稚園教育要領に記されている文言をインプットし、文字でアウトプットできる。 ・保育の内容と方法の基本について理解し、関連文献を読むことができる。 ・保育者の専門的アプローチに興味を持ち、自発的に保育現場に出向くことができる。	◎	○	○	◎	○		△	○	△		△		○
	保育者論	保育者の役割と倫理、保育士の制度的な位置づけを理解し、その上で保育士の専門性について考察し、理解する。また、保育者の協働について理解をし、あわせて保育者の専門職的成長について理解する。	・保育者の資格制度を理解し、概要を説明することができる。 ・保育の先達に学びを求め、偉人紹介の著書を読むことができる。 ・「反省的実践家」と「成長し続ける保育者」の意味を理解し、優れた保育の専門家を探すことができる。													

専門基幹科目D群	家庭支援論	人間は他者と様々な関係を結ぶことを通して、自分の生活を維持していく。その関係のなかでも中心的な役割を果たすのが、家族である。では家族とはどのような集団なのだろうか。また、家族とはどのような機能をもっているのだろうか。現代日本の家族形成のあり方がどのように変化しているのか、社会統計、社会調査のデータをもとにしながら家族を、そして家族を取り巻く社会の変化の要因を探る。具体的には、結婚と家族に関する社会統計、社会調査のデータを客観的に把握し、分析する力を身につける。	現在の家庭の意義とその機能を踏まえて、子育て家庭の社会的支援体制があげられるようになる。	◎	◎	○	○			○	△	◎	○	◎	◎	
	保育内容研究（人間関係）	前期は保育所保育指針や幼稚園教育要領を踏まえながら、子どもの育ちや人間関係を発達的に捉え、記録に残せるようになることを目的とする。後期はまず他の保育士や専門職と連携できるよう、ゲームを通してコミュニケーションのあり方を検討し、そのうえで子どもの発達を支援できるような環境づくりや人間関係づくりの原案（指導案）をグループ単位で作成できるようになることを目的とする。また、現在の保護者の状況について理解し、信頼関係を構築するための方策についても考察していく。前期・後期とも作業や課題への取り組みが中心となる。	1)子どもの行動や様子を発達的な観点から観察し、記録を取ることができる。2)保育指針や幼稚園教育要領を通して、特に人間関係とのかかわりから子どもの発達を理解することができる。3)他の保育士や専門職と連携してチームを形成できるよう、コミュニケーション力を高める。4)子どもの発達を支援する環境や人間関係をどのように形成していくかその原案（指導案）を作成できる。5)現在の保護者の状況を理解し、信頼関係を構築するための方策を体験的に理解する。	◎	◎	◎	◎			◎	○	◎	◎	◎	◎	○
	保育内容研究（運動あそび）	「生涯スポーツ」という言葉を頻繁に耳にするようになった昨今、全ての基礎を養うべきである幼児期はそこにどう関わっていくのか。子どもにはなぜ運動が必要なのかということを、子どもたちの遊び、つまりは運動遊びから探っていく。人間の発達についての理解を深め、その発育発達に応じた運動遊びの環境作りが出来るようになることを目的とする。また、それに伴い自分自身の健康にも向けてもらいたい。基本的な授業展開として、前期は講義、後期を実技中心に行っていく。	①現代社会の「運動」に関しての理解を深める。②「運動」に関して、自分自身の身体にも目を向けられるようになる。③子どもの発育発達に応じた運動遊びを理解でき、指導できる。	○	○	◎	◎			○	○			○	◎	
	教育方法論（視聴覚教育等を含む）	本講義の目的は、教育の方法・技術について考えるための基本的視座を提供することである。有意味学習の基本的メカニズムや留意すべき点について概説し、教育を取り巻く状況、学習指導の実際的諸問題について述べる。各種情報機器や教材・教具の活用についても触れる。	教育心理学的用語を用いて以下のことが説明できる。（１）素質と能力の区別と学習の意義。（２）有意味学習のメカニズムと学習指導の留意点。（３）教育を取り巻く状況と子どもの状態。（４）教育機機器や教材・教具の教授学習過程における機能。						○							
	表現技術Ⅰ（音楽）	本講座では、ピアノの基礎技術習得を目標にします。 さらに、教育・保育の現場で活用できる教材曲の弾き歌い、マーチ演奏、コードネームも学習します。 前目毎に音楽ドリルの課題を出して、理解できているか確認します。 経験の有無を問わず、個人レッスン形式で授業を行います。 楽譜で使われる用語や記号を正しく理解し、現場で生かせる演奏テクニックの習得やレベルアップを目指します。 一人ひとりの努力の成果が顕著に現れる科目ですので、毎回のレッスンに向けて日々の練習が欠かせません。	楽譜に書かれた記号や用語を理解し、一人で楽譜が読める。 ピアノを両手で演奏し、途中でつかえたり後戻りしない。慣れてきたら、機械的に正確な演奏にとどまらず、幼児や児童の感性に訴える演奏を目指す。	◎		○		◎			○			○		◎
	表現技術Ⅱ（音楽）	幼稚園・保育士課程 ：「続　こどもの歌２００」より、弾き歌い（指定あり）できる曲を増やす。 今年度は、歌遊び（旧模擬保育）の指導は行わない。 前期に、コードネームの付いた歌（指定あり）の伴奏譜を制作する。 後期には、こどもの歌（指定あり）のピアノ伴奏のみを弾く。 小学校課程 ： 前期には３～６年生用の歌の、標準伴奏を４曲弾けるようにする。 児童が楽しめる模擬授業を目指す。 後期は模擬授業をしないで、ひたすら弾き歌いのレパートリーを広げる。 初等科音楽教育法の歌以外に、教科書指導書の歌伴奏にも取り組む	表現技術Ⅰや音楽Ⅰで習得したピアノ技術のレベルアップ 幼稚園・保育士課程 ： 弾き歌いのレパートリーを広げ、実習に備える 楽譜を読むだけにとどまらず、書くことに慣れる。 小学校課程 ： 弾き歌いのレパートリーを広げ、実習に備える。 楽しめる模擬授業を目指す。	◎		○		◎			○			○		◎
	音楽	本講座では、ピアノの基礎技術習得を目標にします。 さらに、教育・保育の現場で活用できる教材曲の弾き歌い、マーチ演奏、コードネームも学習します。 前目毎に音楽ドリルの課題を出して、理解できているか確認します。 経験の有無を問わず、個人レッスン形式で授業を行います。 楽譜で使われる用語や記号を正しく理解し、現場で生かせる演奏テクニックの習得やレベルアップを目指します。 一人ひとりの努力の成果が顕著に現れる科目ですので、毎回のレッスンに向けて日々の練習が欠かせません。	楽譜に書かれた記号や用語を理解し、一人で楽譜が読める。 ピアノを両手で演奏し、途中でつかえたり後戻りしない。慣れてきたら、機械的に正確な演奏にとどまらず、幼児や児童の感性に訴える演奏を目指す。	◎		○		◎			○			○		◎
	障害児保育	障害児保育を支える基礎理念、障害と人権について学び、保育士として障害に向き合う姿勢を考える。また、様々な障害の理解と対応、障害児をもつ家族への支援、保育者間・専門機関との連携について学び、保育実践に向けての基礎知識を獲得する。	1.障害と人権についての知識を獲得し、自分なりの意見をもつ 2.様々な障害の特徴と対応について理解する 3.子どもの問題行動から障害の原因を推定する 4.障害児保育の計画を立案する 5.障害児をもつ家族に対する支援や様々な連携について知る	◎	◎	○		○	△					○		◎
	障害者教育総論	我が国の特別支援教育の制度を理解するとともに、視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、運動障害者、病虚弱者、言語障害者、情緒障害者、発達障害者の特性や指導について理解する。	我が国の特別支援制度や視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、運動障害者、病虚弱者、言語障害者、情緒障害者、発達障害者の特性や指導について説明できる。	◎	◎	○						◎	◎			◎
	発達障害教育総論	発達障害の定義と特性を理解し、その特性に応じた適切な教育について理解する。		◎	◎	◎	○				○			○	○	○
	自閉症教育総論	自閉症児者の特有の心理・行動の特徴を理解する。 さらに、学校場面で具体的にどのような支援を行ったらよいかについて、理解を深める。	自閉症児者を指導する実際の教育現場で、社会的相互交渉の機能を高める支援、コミュニケーション機能を高める支援、認知能力を高める支援を実践できるようにする。	○	○	○		○			○			○		◎
	コミュニケーション障害教育	（１）コミュニケーションのメカニズムについて、解剖学的側面と心理学的側面から理解する。 （２）様々な障害に対するコミュニケーション障害の特徴と支援の方法について理解する。	（１）コミュニケーションのメカニズムについて、解剖学的側面と心理的側面から理解できる。 （２）様々なコミュニケーション障害を理解できる。 （３）各コミュニケーション障害に対応した支援ができる。	○		△		◎			○			△		◎
	保育実習指導Ⅰ	保育実習指導Ⅰの学習を通して、保育所及び児童福祉施設等の現場で、より有意義かつ実り豊かな体験ができるよう理解を深める。さらに、本科目においては、保育実習に向けての準備を行い、一連の保育実習関連教科目において初学的段階の理解をする。	保育実習の内容や方法、実習施設の概要や保育者の業務等を理解し、保育実習前に準備すべき事項について取り組むことができる。	◎	○	○	○	△	◎			○	○	○		○
	保育実習指導Ⅱ	本科目は、現場での保育実習をより有意義かつ実り豊かなものにするために必要な事項等について、学内において諸々の指導を実施するものである。 このうち、実習前は準備教育として、事前準備や取り組み方の理解、実習の内容や方法の理解、実習施設や保育者の業務の理解等に関する指導を行う。また、実習後は、実習の総括をしながら設定課題に即して点検・評価・改善を行う。具体的には、実習中に生じた疑問や問題を解決させたり、事後の学習課題や自身の方向などを見極めるために、実習全般を振り返させるものである。	1.　保育の営みを言語化し、他者に伝えることができる。 2.　実践と省察を往還的にできる。 3.　疑問の解消や問題の解決に取り組むことができる。 4.　学習課題や自身の方向などを見極めることができる。	◎	○	◎	○	○	○	○	◎	○	○	△	△	○
	保育実習Ⅰ	「保育実習」は、保育所及び児童福祉施設等の現場で実際に体験しながら学習を行う。保育実習Ⅰは、６月下旬から７月上旬にかけて１０日間行われる「施設実習」と、８月下旬から９月上旬にかけて合計20日間で連続化されて行われる「保育所実習」のうち、前半１０日間分をさすものである。保育実習Ⅰにおいては、保育に関する理解を深め、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学習する。	1．保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解することができる。2．観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深め、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶことができる。3．保育の計画、観察、記録及び自己評価、保育士の業務内容や職業倫理について理解を深めることができる。	◎	○	◎	○	○	○	△	○	◎	○	◎		○
	保育実習Ⅱ	「保育実習」は、保育所及び児童福祉施設等の現場で実際に体験しながら学習を行う。保育実習Ⅱは、合計20日間、連続化されて行われる「保育所実習」のうち、後半１０日間分をさすものである。保育実習Ⅱにおいては、保育実習Ⅰの経験を踏まえ保育に関する理解をさらに深め、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学習する。	保育実習Ⅰの経験を踏まえ保育に関する理解を深め、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶことができる。また、保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組むとともに、保育士の専門性や職業倫理について具体的に理解したうえで、自己の課題を明確化することができる	◎	○	◎	○	○	○	△	○	◎	○	◎		○
	社会学原論	前期は、講義用プリントを利用しながら、近代社会の特徴を把握しようとした著名な理論家たちをとりあげ解説します。先人たちの目を通じて、市民社会、市場経済、宗教、政治など、近代社会の様々な側面について見ていきます。 後期は、教科書を使用し、現代社会学理論に大きな影響を与えたパーソンズ理論を解説します。誰でも関わりを持つ医療を切り口にして、「行為」「役割」「システム」といった社会学の共通言語となった概念を学習します。	社会学の基礎概念を習得する。	◎	◎	○				◎	○	○	○	○	○	

専門基幹科目群	経済原論（国際経済を含む）	経済学は大きくミクロ経済学とマクロ経済学に分けられる。ミクロ経済学は、経済主体（家計、企業）の個別の行動に焦点をあて、消費や生産などの活動を分析するする理論体系である。一方、マクロ経済学は個別の経済活動を集計した一国経済全体を焦点にあて、国民所得、雇用、投資、貿易などの分析する理論体系である。本講義では、前期にミクロ経済学の理論の習得を、後期にマクロ経済学の理論の習得を目的としている。	1．ミクロ経済学の理論が習得できる。 2．マクロ経済学の理論が習得できる。 3．練習問題（計算問題を含む）を解くことができる。		△	△		◎	○	○	△					○
	財政学	現在、日本は高齢化に伴い、社会保障財政が増大している一方、景気低迷の影響などで税収が落ち込んでいる。国と地方を合わせた長期債務残高は900兆（2012年度末見込）を超えており、財政再建が急務の課題となっている。本講義では、国家財政および地方財政の現状を確認したうえで、財政にかかわる諸問題を考えていく。また、財政の基礎理論についても講義する。本講義を通じて、我々が支払っている税金の使い道をしっかりと把握しておきたい。	1．国家財政の現状を説明することができる。 2．地方財政の現状を説明することができる。 3．福祉財政の現状と特徴を述べることができる。 4．日本における租税構造について解説できる。 5．財政に関する基礎理論について解説できる。		◎	○		◎	○	◎	◎			△	○	○
	家族社会学	人間は他者と様々な関係を結ぶことを通して、自分の生活を維持していく。その関係のなかでも中心的な役割を果たすのが、家族である。では家族とはどのような集団なのだろうか。また、家族とはどのような機能をもっているのだろうか。現代日本の家族形成のあり方がどのように変化しているのか、社会統計、社会調査のデータをもとにしながら家族を、そして家族を取り巻く社会の変化の要因を探る。具体的には、結婚と家族に関する社会統計、社会調査のデータを客観的に把握し、分析する力を身につける。	家族が変化する社会とどのような関係にあるのかを客観的に捉えられるようになる。	○	◎	○	○			◎	○		△	○	◎	○
	社会調査法（社会調査統計を含む）	社会調査とは社会で起こるさまざまな問題を客観的に把握し、解明するために行われる科学的な実践である。本講義では、社会調査の企画、設計、データ収集、分析という社会調査の一連のプロセスについて学び、社会調査の基本的な考え方を習得するとともに社会調査の具体的な技法を身につけることを目指す。	社会調査の企画、実施ができるとともに、専門的な調査報告書を読み込むことができる。	○	◎	○	△	◎	◎	◎	◎	○	△	◎	△	△
	社会調査実習	社会調査とは社会で起こるさまざまな問題を客観的に把握し、解明するために行われる科学的な実践である。本講義では具体的な事例を交えながら社会調査の方法を解説していく。できる限り実習作業を採り入れながら実践的に社会調査技法を習得する。	社会調査の企画、データの収集・整理、データ分析、報告書作成までの一連のプロセスを自ら実践できる。	○	◎	○	△	◎	◎	◎	◎	○	△	◎	△	△
専門発展	知的障害者福祉論	ソーシャルインクルージョンということばがもてはやされているなか、今日の知的障害者福祉施策は脱施設化から地域移行へといった政策が展開されている。多くの問題や課題を残して2013年4月1日から「障害者自立支援法」を「障害者総合支援法」とするとともに、障害者の定義に難病等を追加し、2014年4月1日から、重度訪問介護の対象者の拡大、ケアホームのグループホームへの一元化などが実施され施行される。本改正が当事者にどのような影響を与えるのかは不透明である。本講義では施設福祉施策と在宅福祉施策に伴う生活実態を分析しながら、知的障害者福祉の在り方について理解する。	1.知的障害者の生活問題に連関する社会福祉施設、就労、社会生活のなどから知的障害者の暮らしのあり方を具体的に検討する能力を高める。 2．障害者福祉政策から知的障害者福祉の実態を知ることでいかに障害者福祉のなかでも知的障害者福祉政策が進展していないかを考える能力を高める。　3．今後の知的障害者福祉のあり方を考える能力を高める。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	社会福祉法制	本講義の主たるテーマは、「社会福祉法(制)」とは何か、を理解することにある。特に、人権、権利とは何かを理解し、「社会福祉の向上と増進」と「法」との相関的理解を重視する。	社会福祉法(制)とは何か、について説明できる。社会権の基本権(人権)を判例、学説(通説)を一応説明できる。 「社会福祉の向上と増進」との関連で、社会福祉法(制)の課題と展望について説明できる。児童、障害者、老人の福祉法を国際標準の理解ができる。	◎	◎	◎	△	○		△	◎			○	△	○
	福祉用具と生活支援Ⅰ	利用者が生活の中で福祉用具を活用し，自立・自律や社会参加に向けた生活を送るための生活環境の整備，福祉用具の基本事項について習得する．本講義では，福祉用具利用者の生活支援を目的とし，身近な基本的福祉用具の使用上の注意事項などについて理解を深める．	わが国の超高齢社会の現状と課題を理解する中で，何故，福祉用具が必要とされるのか？を明確に説明できる．福祉専門職として福祉用具を活用する意義について考察できる．福祉用具を必要としている人々について整理・理解できる．	○	○	△				△	△					
	福祉用具と生活支援Ⅱ	利用者が生活の中で福祉用具を活用し，自立・自律や社会参加に向けた生活を送るための生活環境の整備，福祉用具活用手法について主に「適合」の視点から理解を深める．本論では，適合の重要性について具体的事例を通して理解を深める．	福祉用具を必要としている人々について具体的に説明できる．”適合”の重要性について文章化できる．福祉用具を適合させるために必要となる基礎知識と基礎技術を実際に応用することができる．	○	○	○				○	○					○
	福祉用具活用実習	実際に福祉用具を用い，具体的導入方法について実践的に学ぶ過程で，主に「立ち上がりおよび座りと福祉用具」，「歩行と福祉用具」，「座位と福祉用具」，「車いす移動と福祉用具」，「移乗と福祉用具」について理解する．	福祉用具と利用者の関連性について説明できる．介護動作と福祉用具の関連性について，実践の場で応用できる．車いす適合の基礎手法を実践できる．	○	○	◎				○			◎			○
	福祉支援工学	福祉支援工学とは障害や高齢により生じる生活上の問題に対して，工学（夢を形にする）的に支援する手段とされている．本講義では，工学技術に特化することなく，医学・福祉・情報支援等を含む複合領域として捉え，多角的理解を促すとともに，「自立・自律支援」に必要な知識と技術について理解する．	福祉支援工学の役割について説明ができる．福祉支援工学を必要とする人々について理解し，福祉支援工学を支える技術について図表を用い文章化できる．自立・自律支援と福祉工学の関連性について説明できる．	○	○	○		○	○							○
	病院管理学	医療の進歩、疾病構造の変化、医療需要の変化の中で病院機能、病院組織の機能も変化をたどっている．歴史的変遷を通して考察する。また、病院の業務についても理解する。	1.病院の歴史的変遷を説明できる。 2.病院の役割・機能について説明できる。 3.病院業務につくことができる。	△	◎	△	△				◎	△	△	△	△	△
	解剖生理学	ヒトの生命を支える分業システム並びにそれらを調節するシステムについての基本的理解を進め、疾病や障害の機序などについて理解するかを身につける．図などを活用して視覚的理解を図ることにも留意する。	1．ヒトの構造について説明できる。 2．生命を維持する各器官について説明できる。 3．脳の構造と機能について説明できる。。 4．ヒトの活動について解剖生理学的に説明できる。	◎	◎	○				◎	○	◎			◎	○
	基礎運動学（バイオメカニクス）	本講義では，人間の動きについて学ぶ．高齢者や障害も持つ方々を支援する上で，人間の動きを理解することは，専門性を確立する上でも重要な項目となる．また，人間をより客観的に理解する上でも有益な学習となる．中村によれば，人間の体は生理，心理，社会の3側面から研究されるべきであり，運動学はその三者を結びつける方法と示している．本講義では，生態力学の視点を軸に人間の運動についての理解を深める．	リハビリテーション専門職と運動学に関する基本情報を共有することができる．人体の主要関節について理解・説明できる．触診と基本的評価手法について実践できる．	◎	○				○							○
	高齢者の保健福祉とリハビリテーション	老人保健福祉，高齢者の心理，医学の基礎知識，リハビリテーション概論を通して，福祉用具を用いた高齢者の生活支援の基本的知識・技術の習得をはかることに焦点をあて，利用者理解・生活上の課題について理解を深める．	高齢者の生活上の課題を医学・心理・福祉の視点から説明できる．高齢者福祉とリハビリテーションの必要性について文章化できる．	○	○	○					○					○
	ケアマネジメント論	必ずしも介護保険のケアマネジメントの解説を目的とはしない，もっと広く、なぜケアマネジメントが必要とさせるようになったのか、ケアマネジメントの目標と焦点とは何か、基本的な考え方と具体的な実践方法はどのようなものか、どのようにさまざまな分野で活用されているのかを理解する。	ケアマネジメントが必要とされた背景を説明できる。 個別支援としてのケアマネジメントを説明できる。 ケアマネジメントのシステムを説明できる。 ストレングスモデルを説明できる。 ケアマネジメントの機能を理解し、実践できるようにする。 事例に基づいてアセスメントとケアプランを作成できる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	社会保険論	私たちの生活上避けて通ることのできない老齢や疾病、障害、死亡などの危険に対応するために、社会保険の果たすべき役割は大きい。したがって、私たちは今まで以上に社会保険に関して興味を持って学ぶ必要がある。本講義においては、保険の仕組みを理解した上で、社会保険の理論的な考察や具体的な制度の仕組みと現状、そしてそれらが抱えている諸問題について学ぶ。	1.身近な生活上の危険を理解することができる。 2.生活における社会保険の重要性を認識することができる。 3.社会保険の内容を理解して、自らの生活に活用することができる。	◎	○	○				△	△					○